

## ●研究室紹介

### 山口大学工学部における 計画系研究室

久井 守  
田村 洋一

#### はじめに

山口大学は本州最西端に位置する国立大学であり、7学部・1研究所・2短期大学部（工学部と医学部に併設）からなっている。大学本部は山口市にあるが、工学部と医学部は宇部市にある。工学部は来年創立50周年を迎える。昭和63年1月現在で学部9学科と9専攻の大学院工学研究科（修士課程）からなり、学生定員は学部が1学年約400名、大学院が約70名である。このうち土木系の学科は土木・建設工学科の2学科である。

土木工学科は工学部設立当初からの古い学科であり、建設工学科は昭和55年に設置された新しい学科である。2つの学科はいずれも4講座からなり、一体となって教育と教室運営を行っている。学生定員はそれぞれ学部45名、工学研究科7名である。両学科の中で計画系の教育・研究は、次の2つの研究室（講座）において水工・構造の研究と同時に行われている。

#### 土木工学科水工学研究室

水工学研究室の中で、計画系のスタッフは久井（助教授）1名である。毎年4~5名の卒研生の指導を行なながら研究活動を展開している。また、山口県や建設省の道路計画および地域計画関連の各種委員会にも引っ張り出されている。

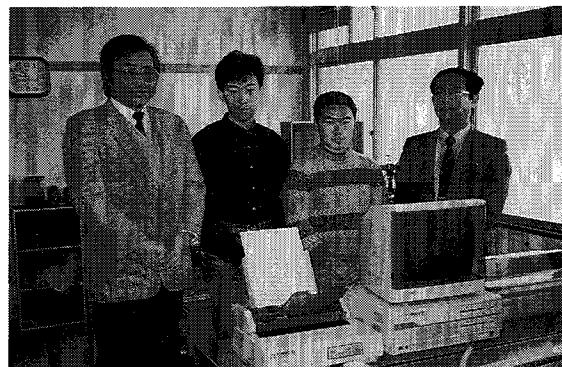
久井の研究テーマは、これまで一貫して交通信号制御の最適化であったし、現在の主な研究テーマでもあるが、これ以外に最近いくつかの研究を手がけているので、これらをまとめて紹介すると以下のとおりである。

(1) 交通信号制御：①過飽和時の最適制御、②各種制御方式の比較と評価、③制御理論の標準化。

(2) 地域分析：①人口の社会移動からみた公共投資等の政策の効果、②地域の経済・社会システムのモデル化。

(3) 道路計画：①道路網の整備効果の予測、②住宅団地等の地域開発を考慮した道路整備。

(4) 地方都市の駐車場計画：①駐車場整備と中心商業地の活性化、②駐車政策の総合化。



(5) 水文解析：①降雨資料の統計分析、②降雨現象のシミュレーション。

#### 建設工学科交通工学研究室

交通工学研究室では、田村（助手）が毎年2~3名の卒研生を指導しながら、これまで主として道路交通流の研究に取り組んできた。現在ではこれに加えて地域計画・歩行者交通環境・技術史にも研究領域を広げつつある。これらのうち交通流については、九州大学土木工学科 横木 武教授と密接に連絡をとりながら共同研究を行っている。また、同教授を中心に開催されている交通計画研究会を通じて、九州地方の研究者とも意見・情報の交換を行っている。さらに、山口大学を中心にして広く他大学・民間・官公庁からも人材を集めて学際的に組織された地域計画研究者機構に参加し、地域に密着した研究・提言活動を行っている。これまで手がけてきた研究を紹介すると以下のとおりである。

(1) 道路交通流：①車頭時間・速度・車群の分布特性とモデル構築、②交通流の渋滞・非渋滞判別、③車群分布に基づいた道路施設の改善。

(2) 地域計画：①都市・地域の連関構造、②道路構成と人口拡散の関係、③高齢化社会における交通計画。

(3) 歩行者交通環境：①非健常者と幼児・児童の交通特性、②幼児・児童の視点からみた交通環境の分析。

(4) 技術史：西欧科学技術の導入に翻訳語が果たした役割と問題点。

#### おわりに

山口県の産業は重厚長大の基礎資源型の工業に特化しているため、地域経済は低迷をつづけている。また各地で中心商業地の衰退問題も生じている。このため、宇部テクノポリス計画や産業構造の転換等に地域振興の活路を求めるようとしている。われわれも地域の発展に多少なりとも貢献できる研究をと考えているところである。